



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.53

令和2年12月14日

文責：校長 伊藤孝行

ピンポンダッシュの法則！？！？！？②

前号で、こんな質問をさせていただきました。

- ① ピンポンダッシュを主にする学年は？
- ② ピンポンダッシュをする時の人数は？
- ③ 見つかったときに必ず言うことは？

解答を出しながら、このピンポンダッシュにある法則？について考えていきたいと思います。

① いたずらする子どもの法則

ほとんどがギャングエイジの3・4年生

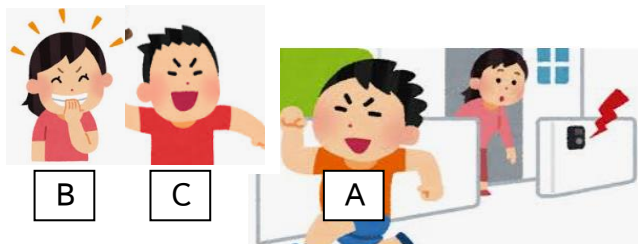
② いたずらする子どもの人数の法則

3人～4人の少人数グループ。

③ 見つかったときに言う言葉の法則

*実行犯「ぼくだけじゃありません。」

*見守り犯「ぼくはやっていません。」



上のイラストのような場合、見つかるのはたいてい実行犯のAです。BとCは離れた場所にいるので見つかりません。しかし、見つかったAは、「ぼくだけじゃありません。」と言い、遠くにいるBとCを指さします。

離れたところにいたBとCも見つかってしまいます。すると二人は、「ぼくたちはやっていません。見ていただけです。」と言います。

さて、BとCには罪はないのでしょうか？この場合「同罪」と考えるのが妥当だと思います。

ピンポンダッシュは通常一人でやることはありません。離れて見ている仲間がいるからこそ、行動が大胆になり自制心が働かず、見つかるまでいたずらが止まらなくなってしまうのです。

子どもたちの多くは、いたずらをするとき「やっていいことや悪いことなのか」は分かっています。しかし、集団になると「悪いことだから止めよう。」と言えない雰囲気、同調圧力が働くのです。

集団の中で「止めよう」と言うことは気持ちだ

けでは無理です。具体的な場面を想定して、何をどう言えばよいかを考え、その子なりの表現でやめさせる言葉が使えればよいと思います。

「悪いことはしてはだめ。」という正論でも、「悪いことは絶対に見つかるよ。ぼくは怒られるのはいやだな。」という一見弱気の言葉でも、その集団を止めることができ、いたずらに至らなければ勝ちになるということを教えたいと思います。

最近では、モニター付きチャイムや防犯カメラを設置する家が増えたため、幸いなことにピンポンダッシュは激減しています。

今日は赤穂浪士討ち入りの日です。

時代劇として人気のある忠臣蔵で、大石内蔵助が率いる赤穂浪士が、主君浅野内匠頭の仇の吉良上野介を討ち取ったのが、今から317年前の1703年12月14日です。

先日、「忠臣蔵の決算書」という本からおもしろいものを見つけたのでその一部を紹介します。

○討ち入り総経費：700両＝約8600万円

○当時のものの値段を現代に換算

そば16文＝約480円 ➡ 1文＝30円

・豆腐一丁＝12文（約360円）

・寿司一貫＝4文（約120円）

○戦国時代から江戸時代の武器の値段

物 品 等	金額(現在の金額)	備 考
騎 馬	400万円～100万円	今の車と同じ位
鉄 砲	60万円～50万円	織田家購入価格
	250万円	上杉家購入価格
弾+火薬	1発3000円	火薬の原料輸入
刀(太刀)	700万円～2万円	身分で違う
や り	5万円	足軽が使うもの
弓	50万円～2万円	
甲 冑	数千万円～10万円	身分で違う

「馬1頭で100万円以上するんだ。」こんな雑学を頭に入れて、時代劇を見ると今までと違う面白さを見えるかもしれません。